

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

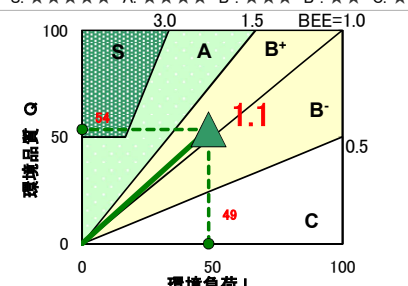
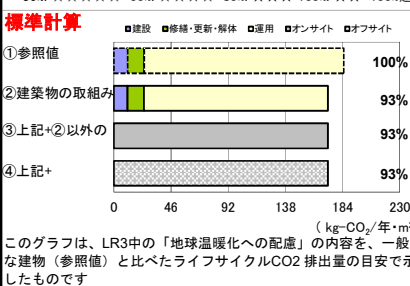
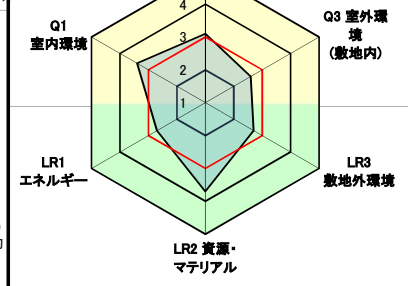
CASBEE札幌

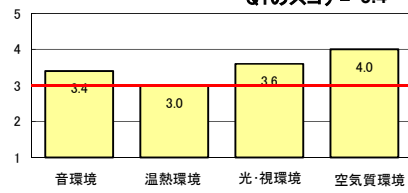
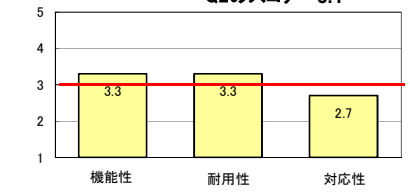
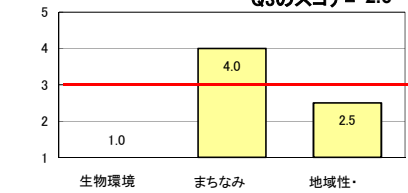
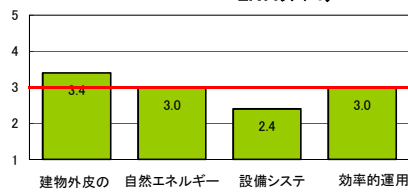
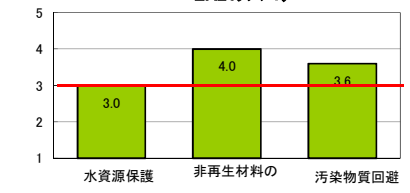
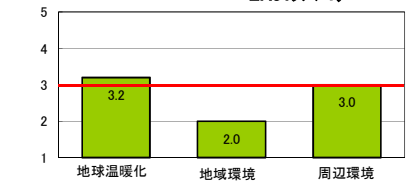


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌市中央区南2条西1丁目ホテル		階数	地上13階
建設地	札幌市中央区南2条西1丁目7-9、7-10		構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域		平均居住人員	373 人
			年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル		評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定		評価の実施日	2019年6月12日
敷地面積	447 m ²		作成者	
建築面積	364 m ²		確認日	2019年6月13日
延床面積	4,111 m ²		確認者	

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)	
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 		標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ ■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト 			
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです					

2-4 中項目の評価 (バーチャート)	
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4  音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1  機能性 耐用性 対応性 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.6  生物環境 まちなみ 地域性・ LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7  建物外皮の 自然エネルギー 設備システ 効率的運用 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7  水資源保護 非再生材料の 汚染物質回避 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7  地球温暖化 地域環境 周辺環境 LRのスコア= 3.0	

3 設計上の配慮事項	
総合 交差点に面する部分は窓ガラスを多く用いて、外壁は高さに圧迫感を感じないように明るい配色とし、周辺の街並みに配慮した。	
B 省資源等	C 緑化
乾式間仕切壁、ウレタン吹付断熱材など分別が比較的容易な建築材料を使用している。	緑化はしていません。
D 雪処理	
歩道、敷地内にロードヒーティングをし、排雪作業負荷の軽減に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.3)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0					
(仮称)札幌市中央区南2条西1丁目ホテル		欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)			
スコアシート		基本設計段階					
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							3.1
Q1 室内環境				0.40		-	3.4
1 音環境			3.8	0.15	3.2	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音			5.0	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能			5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境			3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			3.3	0.25	3.8	1.00	
3.1 昼光利用			4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率			5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-		-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策				-		-	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境			4.0	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策			5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質			5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理			3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				-		-	
2 喫煙の制御			3.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.1
1 機能性			3.4	0.40	3.3	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	2.5	0.60	
1	広さ・収納性			-	1.0	0.50	
2	高度情報通信設備対応	各客室に100Mbitの利用が可能な配線を整備している		-	4.0	0.50	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	4.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	客室の寝室部分の天井高H=2.80m		-	5.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	客室内のインテリアに積極的に木などの天然素材を使用した	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	清掃のしやすい素材や凹凸をへらした計画にした	4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.3	0.30		-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			4.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 耐用年数30年以上の仕上材を使用している	5.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 耐用年数20年以上の仕上材を使用している	5.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 主要な用途の配管に耐用年数30年以上の管種を使用している	5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAの対策を行っている	4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			-	-	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			耐力壁を少なくし、空間の自由度を高くしている	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			緑化	1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			緑化	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			雪処理	3.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			省資源 緑化	2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネ	3.4	0.20	-	3.4
2 自然エネルギー利用			省エネ	3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			省エネ	[BEI][BEIm] = 0.92	2.4	0.50	2.4
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング			省エネ	3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制			省エネ	3.0	0.50	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング			省エネ	-	-	-	
4.2 運用管理体制			省エネ	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護				3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				4.0	0.60	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			省資源	2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			省資源	5.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			省資源	-	3.0	0.22	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			省資源	事務室床:タイルカーペット、後方諸室の床:長尺塩ビシート、ランドリ室の床:塩ビシート	5.0	0.22	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			省資源	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			省資源	躯体と仕上材が容易に分別が可能である	4.0	0.22	-

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料(F☆☆☆☆)を使用している	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	1.00	-	-	
3 冷媒	省資源		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	省資源	LCCO2排出率が参照値とほぼ同等	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 質処理		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		附置義務以上の駐車台数を設け、立体駐車場前に乗降スペースを設けて、周辺の交通渋滞に配慮している	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 質処理	有価物の計画的回収を計画している	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)札幌市中央区南2条西1丁目ホテル	BEE	1.1	BEEランク	B ⁺
建物用途	ホテル,				
延床面積	4,110.7 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	レーダーチャート 省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0 雪処理 省資源等への取組 緑化への取組
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	
			★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)				合計	13.0点 / 23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.6 / 1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.7 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	4.8 / 10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 / 4.0
B 省資源等 (最高点 23.9 最低点 7.5)				合計	15.1点 / 23.9点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.9 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	7.2 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 / 2.1
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.2 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	1.6 / 4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計	7.1点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.5 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8 / 6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 / 2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	2.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数